

財団法人 日本サッカー協会

平成 22 年度 第 11 回理事会

協議事項

1. 技術委員 追加の件
<p>(協議) 資料No.1</p> <p>下記の者を技術委員に追加したい。</p> <p>池内 豊 (いけうち ゆたか) / 1961年8月25日生まれ</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 前U17日本代表監督 (F I F A U17 ワールドカップナイジェリア 2009 出場) ※ 取得ライセンス: S級ライセンス ※ 経歴、別紙ご参照
2. J F A アカデミー地域展開 候補地の件
<p>(協議) 資料No.2①</p> <p>大阪府堺市及び(社)大阪府サッカー協会からの要望を受け、「J F A アカデミー地域展開/要項」に基づき、大阪府堺市を「J F A アカデミー地域展開の候補地」として選定したい。</p> <p><候補地></p> <p>大阪府 堺市</p> <p>(利用施設: 堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンター[愛称: J-GREEN 堺])</p> <p><選定理由></p> <p>堺市・(社)大阪府サッカー協会は連名で正式な要望書を提出しており、かつ両者は当該施設の宿泊機能整備に向けた取り組みやアカデミー招致に向けた運営の検討を積極的に行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・添付資料 1 : 要望書 (堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンター (J-GREEN 堺) における J F A アカデミーの招致に関する要望) ・添付資料 2 : (仮称) J F A アカデミー堺設立準備委員会設置要綱 (案) <p><宿泊施設></p> <p>当該施設内に、(社)大阪府サッカー協会を実施主体とした、宿泊機能整備 (2012年3月竣工予定) を計画している。</p> <p><(仮称) J F A アカデミー堺 概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関西地域を中心とした、<u>中学生年代 (女子)</u> の育成に直接的に働きかけ、更にその周辺のタレント発掘や育成を活性化させる。 ・「週末帰省形式」(J F A アカデミー熊本宇城と同様) を採用し、週末や長期休暇期間は自宅 (地元) に帰省し、地元チームに登録し活動を行う。 ・(仮称) J F A アカデミー堺が、地域の拠点として機能し、サッカーの普及や育成、指導者養成等についても活性化を図る。 <p><審査について></p> <p>「J F A アカデミー地域展開について/要項」に基づき、施設整備、</p>

<p>運営計画（運営体制、収支計画）、行政・教育機関との連携等に関する審査を行う。 （予定）</p> <p>3月～4月 JFAアカデミープロジェクトによる、ヒアリング・調査。</p> <p>4月～5月 JFA技術委員会・JFA女子委員会への報告及び開校についての提案、協議。</p> <p>5月12日 JFA理事会へ上程（開校についての提案、協議）</p> <p><5月理事会にて、「開校」の承認が得られた場合></p> <p>6月上旬 要項発表、募集</p> <p>9月～11月 選考試験実施</p> <p>2012年4月 開校</p> <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「候補地」として承認後、ヒアリングや調査を実施し、「開校」へ向けた準備作業を「候補地」と協働しながら進める。 ・JFAにおける本件のカウンターパートは、女子部とする。
<p>3. JFAマッチコミッショナー認定の件（新規）</p> <p>「JFAマッチコミッショナー認定制度」の選考手順に基づき、JFAの推薦を受けた下記5名について、2月21日付 競技会委員会において審議された結果、2011年度JFAマッチコミッショナーとして認定したい。</p> <p>①上條 一正（かみじょう かずまさ） 55歳（長野県）長野県サッカー協会フットボールセンター準備委員長</p> <p>②権名津 朗（ごんなづ ろう） 54歳（愛媛県）愛媛県サッカー協会副会長</p> <p>③澤田 嘉男（さわだ よしお） 65歳（静岡県）静岡県サッカー協会西部支部会長・前JリーグMC</p> <p>④不破 信（ふわ まこと） 65歳（東京都）Fリーグ総務主事・東京都サッカー協会監事・前JリーグMC</p> <p>⑤松本 守人（まつもと もりと） 35歳（宮崎県）宮崎県1種委員会広報部長</p>
<p>4. 天皇杯実施委員 交代の件</p> <p>天皇杯実施委員2名を、以下の通り交代したい。</p> <p>旧) 委員(学識/共同通信社) 築地 良仁（つきじ よしひと） ↓ 新) 藤田 武徳（ふじた たけのり）</p> <p>旧) 委員(学識/共同通信社) 小泉 泰紀（こいずみ やすのり） ↓ 新) 若槻 貞之（わかすぎ さだゆき）</p>
<p>5. 第7回世界フットボール科学会議 協賛の件</p> <p>（協議）資料No.3</p> <p>以下の会議について協賛依頼があった為、協賛することとしたい。</p>

- (1) 名 称：VIIIth World Congress on Science & Football
 (第7回世界フットボール科学会議)
- (2) 日 程：2011年5月26日(木)～30日(月)
- (3) 会 場：名古屋大学 豊田講堂
- (4) 協賛金：1,500千円
- (5) 内 容：別紙資料参照

6. 公益法人移行後の最初の評議員選任に関する件

(協議) 資料No.4①②

1月13日に開催された第9回理事会において承認された公益法人移行後の「最初の評議員の選任方法」に関し、評議員選定委員及び評議員選定委員会規程を以下の通り定めたい。

(1) 評議員選定委員<最初の評議員の選任方法 第2条及び第3条> (敬称略)

- ①現行寄附行為上の評議員1名 上野 二三一 (うへの ふみかず) /
 (財)東京都サッカー協会 会長
- ②監事1名 池田 正利 (いけだ まさとし) / 弁護士
- ③事務局員1名 福井 一也 (ふくい かずや) / 事務局次長
- ④外部委員2名 上西 康文 (うえにし やすふみ) / 財務委員
 田中 琢二 (たなか たくじ)
 / 国際委員、アジア貢献委員
 計5名

※外部委員2名の略歴は別紙資料参照

(2) 評議員選定委員会規程<最初の評議員の選任方法 第4条>

別紙資料参照

<参 考>

最初の評議員の選任方法

2. 評議員選定委員会は、現行寄附行為上の評議員1名、監事1名、事務局員1名、次項の定めに基づいて選任された外部委員2名の合計5名で構成する。
3. 評議員選定委員会の外部委員は、次のいずれにも該当しない者を理事会において選任する。
- (1) この法人又は関連団体（主要な取引先及び重要な利害関係を有する団体を含む。）の業務を執行する者又は使用人
- (2) 過去に前号に規定する者となったことがある者
- (3) (1)又は(2)に該当する者の配偶者、三親等内の親族、使用人（過去に使用人となった者も含む。）
4. 評議員選定委員会に提出する評議員候補者は、理事会又は現行寄附行為上の評議員会がそれぞれ推薦することができる。評議員選定委員会の運営についての詳細は、理事会において定める。

7. Jリーグ加盟を標榜するクラブに対する優遇措置（改訂）の件

(協議) 資料No.5

Jリーグ加盟を標榜するクラブがJリーグ入りするまでの期間短縮の措置として、「Jリーグ準加盟」を承認された地域リーグ2部以下の所属クラブを対象とした2011年度

における優遇措置である。

なお当該措置は、Jリーグのチーム数がリーグ枠にはぼ達したことにより、本年度を持って廃止としたい。

8. 大学・専門学校における審判養成講習会の件

【趣旨】

大学生や専門学生において、日本サッカー協会派遣の審判インストラクターが競技規則や審判法の授業を行い、正しい競技規則の理解、さらに審判員に必要とされる技術や知識の習得、社会性、人間性を醸成することによって、将来1級を目指せる2級審判員の育成を図る。以下の大学、専門学校において、2011年度以降より4級審判員認定講習会及び3、2級審判員昇級講習会の開設を認めたい。

- (1) JAPAN サッカーカレッジ（新潟県） 講師：1級審判インストラクター
- (2) びわこ成蹊スポーツ大学（滋賀県） 講師：1級審判インストラクター
- (3) 東京国際大学（埼玉県） 講師：1級審判インストラクター

【参考：2010年度実施中】

- ・日本体育大学（受講者100名）
- ・履正社医療スポーツ専門学校（受講者5名）

9. 第91回天皇杯全日本サッカー選手権大会参加チーム及びシード要件の件

第91回天皇杯全日本サッカー選手権大会の参加チーム及びシードの要件を、以下の通り定めたい。

<参加チーム>

- ・ J 1 クラブ 18
- ・ J 2 クラブ 20
- ・ J F L 2
- ・ 大学 1
- ・ 各都道府県代表 47
- 合計 88 チーム

<シード要件>

- ・ J クラブ：2010 シーズン最終順位（J 1・J 2は入れ替えを行う）
- ・ J F L：第13回日本フットボールリーグ前期最終節（6月26日）時点成績順位
1位チームならびに2位チーム
- ・ 大 学：第35回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント優勝チーム

10. J F A ロングパイル人工芝ピッチ公認(新規)の件

1. 公認申請者：上富田町（かみとんだちょう）
施設名：上富田スポーツセンター多目的グラウンド（Aコート）
施設所有者：上富田町長 小出 隆道
公認期間：2011年3月17日～2014年3月16日
公認番号：第108号

<特記事項>

- ◆ グラーサムターフ（H-65MF200）/ヨコハマ弾性舗装システム(株)は製品検査（ラ

<p>ボテスト) を完了し、JFA ロングパイル人工芝基準を満たしている。</p> <p>◆公認規程に基づき2回の検査(フィールドテスト)を実施し、JFA ロングパイル人工芝基準を満たしている。</p> <p>2. 公認申請者：杵築市(きつきし)</p> <p>施設名：フットボールセンター大分きつき</p> <p>施設所有者：杵築市長 八坂 恭介</p> <p>公認期間：2011年3月17日～2014年3月16日</p> <p>公認番号：第109号</p> <p><特記事項></p> <p>◆モンドターフ NSF (Monofibre 12 60 AE STAR FTS) /クリヤマ(株)は製品検査(ラボテスト)を完了し、JFA ロングパイル人工芝基準を満たしている。</p> <p>◆公認規程に基づき2回の検査(フィールドテスト)を実施し、JFA ロングパイル人工芝基準を満たしている。</p>															
<p>11. 高円宮杯U-18 全国リーグ新名称の件</p>															
<p>(協議) 資料No.6</p> <p>【高円宮杯U-18 大会形式変更に伴う新名称について】</p> <p>2011 年度より、2 種年代最高峰の大会である高円宮杯U-18 が、これまでのグループリーグ→決勝トーナメントの大会形式から、全国リーグ→チャンピオンシップという方式へと変わるにあたり、大会名称を以下のとおり変更したい(別添参照)。</p> <p>2010 年度まで 高円宮杯全日本ユース(U-18) サッカー選手権大会</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>2011 年度以降 高円宮杯U-18 サッカーリーグ 2011 (チャンピオンシップ、プレミアリーグ、プリンスリーグ、都道府県リーグ)</p> <p>以上のとおり階層別のリーグ戦において冠名称を統一することで、リーグとしての一体化を訴求し、リーグ文化の醸成につなげていく。</p>															
<p>12. 2010 年度公認S級コーチ養成講習会判定結果の件</p>															
<p>全てのコースを修了し、筆記試験・口頭試験・指導実践・レポート全てにおいて合格したため下記1名を公認S級コーチとして認定したい。</p> <p>氏名：池田 太(いけだ ふとし)</p> <p>指導チーム：浦和レッドダイヤモンズ</p> <p>生年月日：1970年10月4日</p> <p>資格：2004年 A級ライセンス</p> <p>指導歴：</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">1997年～2000年</td> <td style="width: 30%;">浦和レッズ</td> <td style="width: 40%;">ユースチームコーチ</td> </tr> <tr> <td>2000年～2001年</td> <td>浦和レッズ</td> <td>ユースチーム監督</td> </tr> <tr> <td>2001年～2002年</td> <td>浦和レッズ</td> <td>ユースチームコーチ</td> </tr> <tr> <td>2002年～2009年</td> <td>浦和レッズ</td> <td>トップチームコーチ</td> </tr> <tr> <td>2009年～</td> <td>浦和レッズ</td> <td>ハートフルクラブコーチ</td> </tr> </table> <p>※参考：現S級コーチライセンス保持者数： 331名(上記1名含む)</p>	1997年～2000年	浦和レッズ	ユースチームコーチ	2000年～2001年	浦和レッズ	ユースチーム監督	2001年～2002年	浦和レッズ	ユースチームコーチ	2002年～2009年	浦和レッズ	トップチームコーチ	2009年～	浦和レッズ	ハートフルクラブコーチ
1997年～2000年	浦和レッズ	ユースチームコーチ													
2000年～2001年	浦和レッズ	ユースチーム監督													
2001年～2002年	浦和レッズ	ユースチームコーチ													
2002年～2009年	浦和レッズ	トップチームコーチ													
2009年～	浦和レッズ	ハートフルクラブコーチ													
<p>13. 大学・専門学校における指導者養成講習会(C級)の件</p>															

<p>以下の大学において、2010年度より公認C級コーチ養成講習会の開設を認めたい。 奈良産業大学（奈良県）（C級） インストラクター：西田 裕之（47FAインストラクター） 公認A級コーチ ＊参考：開設認定校数 大学：29校 短大：2校 専門学校：16校</p>
<p>14. 2011年度 トレセン/U-12モデル地区トレセン開催要項の件</p>
<p>（協議）資料No.7</p> <p>ユース年代の育成において、U-12年代の育成環境整備を促進していかなければならない。リーグ環境の整備とともに現在全国各地で実施している地区トレセンでのトレーニング内容の向上を図るため、2010年度よりJFAが主体的にモデル地区トレセン開始した。トレーニング内容と成果、近隣の地区トレセンへの波及効果などその有効性は高く評価でき、将来は、各都道府県に1～数カ所のモデル地区トレセンを設置、数年後にはすべての地区トレセンが活性化することを目指して行っていきたい。</p> <p>2008年度 6カ所 2009年度 10カ所 2010年度 28カ所 2011年度目標 50カ所</p>
<p>15. 2011年度 トレセン/9地域指導スタッフ研修会支援制度の件</p>
<p>（協議）資料No.8</p> <p>(1) 目的 研修会を通じて地域の指導者が一堂に会すことにより、指導者のレベルアップ、情報交換や共有を行うこととする。</p> <p>(2) 研修会の内容 ①指導実践 ②スキルアップのための講義・指導実践 ③日本内外のサッカーに関する最新情報の伝達</p> <p>(3) 開催規模 原則として地域単位</p>
<p>16. 2011年度 トレセン/9地域 GK トレーニングキャンプ支援制度の件</p>
<p>（協議）資料No.9</p> <p>2001年より開始したJFAゴールキーパーキャンプでは代表候補となりうる数多くの選手のモチベーションを高めている。成果として多くの選手がJリーグの選手となり、またその中より日本代表選手も輩出されている。</p> <p>日本のゴールキーパー育成の土台を厚くしていくために、今後更にゴールキーパーの育成に力を注いでいかなければならず、現在行われている地域でのゴールキーパーキャンプの開催回数や参加選手を増やしていくことが重要であり、そのための支援を行いたい。</p>
<p>17. 2011年度 トレセン/地域リーグ支援制度の件</p>
<p>（協議）資料No.10</p> <p>2007年度より開始した、トレセンマッチデーを活用したトレセン地域リーグ支援制度を本年度も引き続き別紙要項に則り支援したい。</p>
<p>18. 2011年度 公認S級コーチ養成講習会受講者の件</p>

2011 年度公認 S 級コーチ養成講習会について、1 名が一身上の都合により今回の受講を辞退したため、2 名を繰り上げて受講者とする。

受講辞退：猿澤 真治 JFA 地域ユースダイレクター

繰り上げ受講：浦田 敏己 静岡産業大学サッカー部

神野 卓哉 ガイナーレ鳥取

19. プレジデント・ミッション(PHQ) 関連事項の件

I. 2011 年度「47F A 公益目的事業等活動支援金」の交付について

1. 2011 年度「47F A 公益目的事業等活動支援金」を別紙のとおり決定したい。

(協議) 資料No.11

II. 2011 年度 各種支援制度の対象協会について

1. 各種支援制度 選定に関して

1) M5:エリート養成システムの確立【2011 年度支援制度 (エリート)】

(協議) 資料No.12

2) M8:リーグ戦の推進と競技会の整備・充実【2011 年度支援制度 (リーグ戦)】

(協議) 資料No.13

III. 都道府県フットボールセンター整備推進事業について

「都道府県フットボールセンター整備助成事業 助成金交付要項」第 7 条の規定に基づき、次のとおり、助成金交付を決定したい。

1. 助成金交付申請書の受理

本年度 第 8 回理事会 (2010 年 12 月 9 日) にて交付の内示を決定した 2011 年度の 4 件の案件 (鳥取/島根/福岡/長崎) につき、正式な交付申請書の提出を受けた。

2. 助成金交付の決定

交付内示額との変更なし。

なお、「条件付きの交付内示」とした長崎の案件 (助成申請者: 島原市) については、条件であった「フットボールセンター運営計画書」の再提出を受け、長崎県サッカー協会及び島原市との当該フットボールセンターの運営協働体制と運営方針・運営イメージがより具体的になった。よって、長崎の案件に対する「条件」は削除する。

(協議) 資料No.14

IV. 業務プラン改訂について

2005 年宣言の中の中期目標である「JFA の約束 2015」実現に向けた「アクションプラン 2015」を遂行するにあたり、これまで、JFA 事務局の業務を「業務プラン」としてまとめ、2 年毎に見直しを行ってきた。2015 年に向けての仕上げの時期ともいえる 2011-2013 の 3 年間について事務局内で検討を重ね「業務プラン 2013」を作成した。

今後については 2012 年度の後半に 2013-2015 に向けて改訂作業を行う予定。

(協議) 資料No.15

*資料は分量が多いため一部のみとなっています。詳しくはホームページをご覧ください。